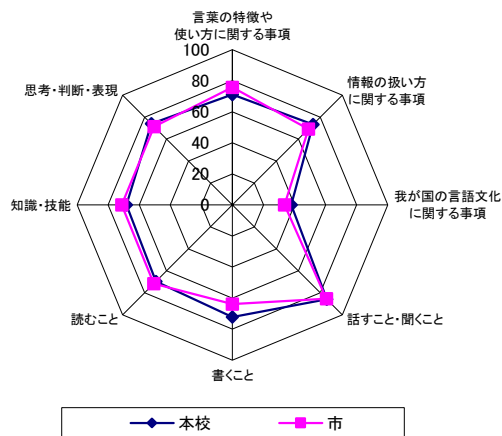


宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	73.3	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	37.8	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	85.9	85.5	86.5
	書くこと	72.2	63.9	65.8
観点別	読むこと	69.6	71.6	69.5
	知識・技能	68.3	71.3	72.9
	思考・判断・表現	73.9	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

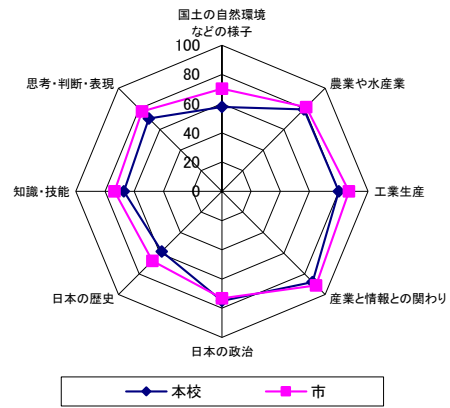
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○漢字において、正答率は市の平均と同程度であった。読書や日々の漢字の学習の成果が表れたと考えられる。</p> <p>●敬語を正しく理解しているかを問う問題では、市の平均を大きく下回った。敬語の正しい使い方が課題である。</p>	<p>・「接続の関係」について理解を深めるため、文章を読む際に前後の文が「原因と結果」なのか「逆説なのか」といった文と文との関係を意識させる。</p> <p>・「敬語」の学習はプリントやドリル等だけでなく、「先生に忘れ物を報告するとき」「初めて会う大人と話すとき」など具体的なロールプレイング形式で学習に取り入れる。</p> <p>・読書のあり方の見直し、読むときのポイントとして接続詞の使い方や登場人物の言葉遣いを意識できるように、めあてをもって読書を行わせる。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>○原因と結果など、文と文との関係を問う問題では、市の平均をやや上回った。意見文を読む際、文と文との関係や、異なる意見文の主張と根拠の比較など、書かれている内容を整理させて読むことを日々の授業で続けた成果と考えられる。</p>	<p>・情報の読み取りについて今後も継続して指導を続けたい。</p> <p>・「だから」「したがって」「一方で」などの接続詞を使い分ける練習をすることで、文章を論理的に構成する力を身に付けさせる。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>○和語、漢語、外来語について理解しているかを問う問題では、市の平均をやや上回った。宿題や読書などで様々な語句に触れてきた成果と考えられる。</p>	<p>・語句の由来や歴史など語句の意味に関することについて学習を進めるとともに、短文作文やノート指導を通して様々な語句を使えるようにしていく。また、漢語や和語、外来語に言い換える言葉遊びなどを行い、言葉を吟味して使えるようにしていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>○話し方の工夫を問う問題では、市の平均をやや上回った。話し方の工夫を適切に捉える学習を行った成果であると考えられる。</p> <p>●自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える問題において、市の平均をやや下回った。話を自分の意図をもって聞くことの習慣がつかないことが分かる。</p>	<p>・話を聞く際に、自分が知りたいこと、相手が伝えたいことなどを意識して聞くことを意識させる必要がある。相手の話を意識して聞く活動としてペアやグループでの学習を行う際に、相手の話を聞いて要約する練習を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>○「メモをもとに下書きを選ぶ問題」「条件に合わせて文章を書く問題」において、市の平均を大きく回っている。朝の学習の時間を活用し、意見文を書く練習を行った成果と考えられる。</p>	<p>・今後は、自分の思いや考えをさらに分かりやすく伝えられるように、言葉を吟味し、より適切な言葉を選択する力をつけられるようにしたい。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○段落相互の関係を問う問題での正答率が高い。文章全体の構成を捉える力が高まっている。段落同士の関わりについて整理したり、日々の授業で文章を読む際に何を伝える文章か視点を絞って読ませたりした成果が表れたと考えられる。</p> <p>●登場人物の心情や様子について描写をもとに捉えているかどうかを問う問題については市の平均より大きく下回った。登場人物の行動や発言に関する文と文のつながりを整理することに課題が見られる。</p>	<p>・登場人物の描写に線を引かせたり、情景描写の表す人物の心情を考えさせたりすることで、登場人物の心情を的確に捉えられるように練習を行う。</p> <p>・登場人物の言葉や動きを実際にロールプレイングを通して理解させていく。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	57.8	70.3	66.4
	農業や水産業	79.3	81.6	75.3
	工業生産	80.0	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	87.8	91.0	81.3
	日本の政治	75.0	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	58.3	67.4	68.5
	知識・技能	67.1	73.5	72.5
	思考・判断・表現	70.6	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

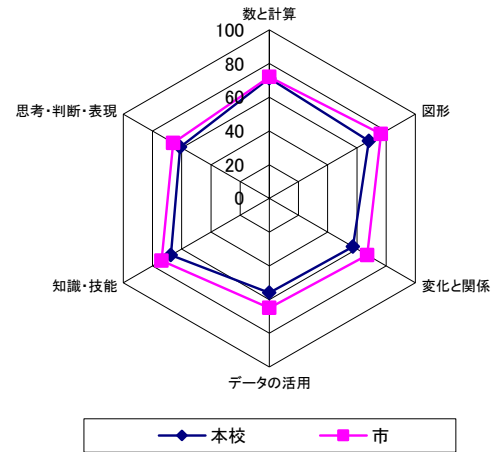
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○日本周辺の海洋名の理解については市の平均をやや上回っており、世界における日本の位置関係を理解していることが分かる。</p> <p>●赤道・季節風については市の平均を大きく下回っており、地理的な知識の不足が見られる。</p>	<p>・赤道が緯線の1つであることを理解できていないと考えられるので、緯度・経度について、地球儀や世界地図を用いて理解を深めさせたい。また、季節風については、図や天気図を用いて理解させたい。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○日本の食料生産について、魚の出荷量における工夫について市の平均を上回っており、資料をもとに判断する力が身につけている。</p> <p>●米の生産、品種改良については市の平均を下回っており、農業や米農家についての知識が不足していることがわかる。</p>	<p>・品種改良までのフローチャートの読み取りができていないと考えられる。単元の中で資料を丁寧に読み取る活動を行いたい。</p>
工業生産	<p>○自動車と安全性について資料をもとに判断する設問について市の平均をやや下回るものの、資料をもとに考える力が身に付いていると考えられる。</p> <p>●日本の貿易について資料をもとに表現する設問では市の平均を大きく下回っており、貿易というものへの知識不足がみられる。</p>	<p>・帯グラフやグラフの変化についてどのような点に着目すればよいか理解できていないので、グラフを様々な観点で比較するような活動を強化していきたい。</p>
産業と情報との関わり	<p>○情報産業の知識を問う設問では市の平均をわずかに下回ったものの、現代社会の情報産業の基本的な知識は備わっている。</p> <p>●情報の発信・受信の注意点に関する設問では市の平均を下回った。</p>	<p>・情報の取り扱いに関することへの課題が見られた。社会的な見地からではなく情報モラルの観点からも情報の取り扱いについて指導したい。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも高い。</p> <p>○法律制定までの流れについて資料から読み取る設問では、宇都宮市の平均を上回った。法律が制定するまでの流れや、行政の役割について理解できている。</p> <p>●基本的人権の尊重への理解が市の平均を大きく下回った。日本国憲法における人権の3つの原則の理解に課題が見られる。</p>	<p>・日本国憲法の3原則については、人権教育と関連させて定期的に復習させたい。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均正答率よりも低い。</p> <p>○中大兄皇子の業績や鎌倉幕府の政治の仕組みへの理解について市の平均をやや上回っていた。関心の高さが理解の高さに結びついている。</p> <p>●能への理解についての理解がきわめて市の平均を下回っている。室町文化への興味の低さが現れた。</p> <p>●同様に、禁教と鎖国の関係性への判断についても市の平均を大きく下回っている。関連性について想起できていない。</p>	<p>・室町文化については、能をはじめとして、人物と文化が一致できなかった面がある。また、江戸時代における政策について、エピソードや人物を関連させたり、児童が興味をもてるように授業の展開を工夫をしたりすることで重点的に理解させたい。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.3	72.1	74.6
	図形	68.1	76.5	76.1
	変化と関係	57.3	67.1	59.7
	データの活用	56.0	65.0	64.5
観点別	知識・技能	67.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	61.0	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

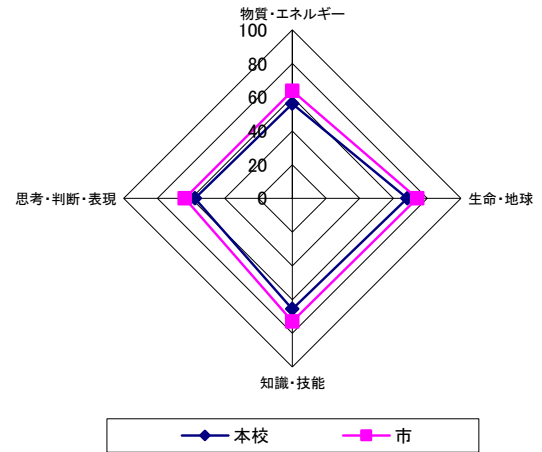
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○「図を使って、小数の乗法の文章問題にあった式を立式する」問題では市の平均を上回った。立式の際に図を用いて考えるように指導した成果と考える。</p> <p>●小数のかけ算・わり算の計算をする問題では市の平均を下回った。基本的な計算が定着していないことが分かる。</p>	<p>・計算の基礎・基本の問題では、6年生で学習した計算は市の平均よりも高く、5年生で学習した計算は市の平均よりも低い結果となった。そのため、小数や分数の計算はその学年だけで学習するのではなく、定期的に復習をしながら学習を進めたり、自主学習等で反復したりできるように指導していく。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○「3辺の長さを使って、合同な図形を作図する」問題では全校平均をやや上回った。拡大図・縮図のかき方を学習する際にも合同な図形を作図を行った結果である。</p> <p>●「線対称な図形の対応する点を理解させる」問題では全校平均を下回った。対称な図形について、正しく理解できていないと考えられる。</p>	<p>・図形の性質(定義)を理解していないことが課題として見られる。図形を正しく理解できるようにするため、具体物を使って、形を作成し図形に慣れ親しんだり、作図の機会を増やしたりしていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○単位量あたりの大きさを求めて、どちらのセットの方が1冊あたりの値段が安いのかを説明している問題では、正答率がやや高かった。</p> <p>●表から車両数と人数の割合を求め、どの路線が最も混んでいるかを考察する問題では、正答率が低かった。混み具合を調べる方法を身につけていないことが分かる。</p>	<p>・問題文を読んで立式する際に、加減乗除のどれを用いて解いたらよいかイメージできていないことが考えられる。問題文をしっかりと読み、数値を整数に置きかえるなどの工夫をして、求めることは何かを理解しながら立式できるよう引き続き指導していく。</p> <p>・5年の「割合」の単元の復習を行うことで百分率を適切に把握できるように指導していく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○度数分布表を完成させる問題では、正答率がやや高かった。</p> <p>●割合の円グラフを読み取り、正しい項目を選ぶ問題では、正答率が低かった。割合を表すグラフを適切によめていないことが分かる。</p>	<p>・グラフからどのようなことが読み取れるか考える活動に取り組む機会を多く設ける。また、割合の意味をきちんと理解できていないので、円グラフや帯グラフが出てきた際には、割合から比較量を求めさせ、定着を図っていく。</p>

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.1	63.8	61.6
	生命・地球	68.2	74.1	73.3
観点別	知識・技能	65.7	73.0	71.3
	思考・判断・表現	57.8	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○物のとけ方では、ろ過のしかたについて理解している。</p> <p>●物のとけ方では、水に食塩を溶かしても、合計の重さが変わらないことについて理解が不十分であった。</p> <p>●水よう液の性質では、リトマス紙の反応と水溶液の液性についての理解が不十分であった。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題意識をもって実験をすることで、何を確かめる実験なのかを理解させたい。 化学的な事象について、日常生活の事象と関連させて理解させたい。
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○植物のつくりとはたらきでは、植物が養分をつくるために必要なことを理解している。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきでは、心臓と血液のはたらきと仕組みについて理解が不十分であった。</p> <p>●月と太陽では、月の見える形が変わる理由についての理解が不十分であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な体験やニュースなどと学習内容を関連付けながら、児童が興味をもてるような授業を展開する。 事象の変化があったときに、何が要因となっているかをはっきりさせるため模型を活用したり、実際にくり返し観察をしたりすることで理解を深めたい。

宇都宮市立国本中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
他者の思いをより深く理解し、友達と学ぶよさを実感できる授業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・図的なペアやグループ学習の実施 ・自分の考えを安心して話せる雰囲気づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年においても「最後まで聞いている」についての肯定割合が9割程度であった。聞くという点を重点的に指導してきた結果である。 ・「グループなどの話合いに自分から進んで参加しているか」の設問について8割程度であった。安心して話せる学級経営や進んで話すことができる手立てが必要である。
書く力を高めるための授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習を活用した作文練習 ・意見文に特化した練習プリント 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」に関して、市の平均を上回る結果であった。今年度は、意見文の練習を文章構成プリント、反論練習プリントとスモールステップで実施した結果である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ・国語では漢字を正しく書くことや、算数では小数の計算を正確に行うことに課題が見られた。そこで、次年度は、基礎基本の定着を目指し、朝の活動の時間や授業の最初の5分などを使って漢字の書き取りや小数・分数の計算についての反復練習を行う。 ・意図的なペアやグループ活動を取り入れてきたが、児童に「進んで参加している」と感じさせるには至らなかった。そこで、次年度は児童が自身の学習の到達度を明確にして課題に取り組んだり、互いに助言し合ったりするために、自己評価表に具体的な指標を取り入れる工夫を行う。
--